

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.90

2022.9.16

発行 寝屋川市自然を学ぶ会

会長 山田 晃

事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9

千田 正喜 宅

TEL090-4036-0719



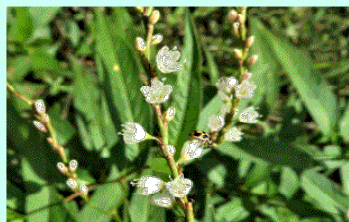
ヒレタゴボウ



アキノノゲシ



ゲンノショウコ



白花サクラタデ



ヨメナ



ツルボ

秋の淀川を彩る草花 ガイドブック秋の淀川調査(2021年)から

じっと見ていると

高田 敏子

流れる雲を見ていたら

雲がいったのよ

「田舎のおばあちゃんが

ほしがきをたくさん作っていますよ」

消しゴムをじっと見ていたら

消しゴムがいった

「なくさずに だいに 使ってね」

金色のイチョウの葉 きれいねと見とれていたら

「さよなら さよなら また来年ね」 風にふかれて散っていった

「教室で読みたい詩 12か月」水内喜久雄編著 民衆社刊

目次

- (2)行事報告① 夏休み子ども自然教室
低学年 生きもの大すき 動くおもちゃ
高学年 木の実草の実・工作 一弦琴・写真立て
- (3)行事報告② おもしろ科学実験
協力活動 図書館・エスポクラブ
- (4)みんなで作る自然資料室だより 子ども自然シリーズ講座
竹けん玉、水鉄砲、水辺の生きもの
- (5)大人自然シリーズ講座 地層と石ころ 夏休みの自然体験学習室

- (6)私の散歩道・枚方ワンドで・淀川を散歩して
- (7)農園のでのきごと・自然観察を・公園の魅力
- (8)私の自然観察 身近な昆虫(38) ショウリョウバッタ
- (9)自然はすばらしい 植物シリーズ(38) ヤイトバナ
- (10)自然界の不思議 火山のふしぎ② 火山灰
- (11)図書紹介 『このあな なんじゃ』お知らせ 展示会の日程
- (12)行事予定 定例自然観察会④里山 ⑤昆虫 ⑥どんぐり
みんなの掲示板④追加⑤・野活の環境整備

夏休み子ども自然教室

「子ども自然シリーズ講座」として、自然資料施設運営スタッフの会と共催で実施しています。

子ども自然シリーズ講座③

「夏休みの自由研究のヒント」を見つけよう

7月16日(土) 小学校1～3年生

参加者 38名 (内子ども 9名)

① 生きもの大すき

～楽しい昆虫の観察～

講師の山本さんが育ててきたアゲハ・テントウムシ・カマキリ・ダンゴムシなどの楽しいお話です。「アゲハが、サナギからう化してせい虫になったあと、最初にするのはどれでしょう？」などクイズを入れながら、「えー」と驚いたり、楽しく学びました。休憩の時には、カブトムシ触りに盛り上がっていました。



「ア」だと思う人?



短い角をつかむといいよ

② 動くおもちゃ

～作って遊ぼう～

牛乳パックを使って車を作りました。講師の東森さんの説明を聞きながら、牛乳パックに型紙を当て、切るところに線を引き切り抜いたりして車体ができていきました。次に車軸受けのストローを取り付け、竹串とペットボトルのキャップで作った車輪を付けて完成。できあがった車は良く走り、親子で楽しんでいました。



うまく切れるかな



車輪むずかしいな

子ども自然シリーズ講座④

「夏休みの自由研究のヒント」を見つけよう

7月17日(日) 小学校4～6年生

参加者 43名 (内子ども 15名)

① 木の実・草の実のふしぎ

～身近な草・木の観察～

木や草の実を切ってみると！切り口に「山」の字など面白い模様が現れびっくり。

講師の木村さんからの実の話や切り口の写真を見た後、実際に切ってみると同じ模様が現れ大喜び。かたくて切りにくい実もありましたが、楽しくいろんな実を切っていました。



おもしろい模様が

② 一弦琴を作ろう

～作って遊ぼう～

摂南大学生が講師です。

竹で作った本体に紙コップを付けた後、指で押さえる所を書いた物差しを当て竹に印をつけていきます。最後に弦を張って完成です。弦の張る強さが難しかったので手伝ってもらったり。できた琴をはじめて音を出し楽しんでいました。



弦を張ったら出来上がり

③ 写真立てを作ろう

～作って飾ろう～

長方形に切った木を張り合わせて、写真立てを作りました。木をのこぎりで切る作業を予定していたのですが時間の関係で省略してしまい、残念がった子も。

講師の中井さんの説明に従って、順に木を張り合わせていき自分の写真立てが完成し喜んでいました。



うまくできた!

4年ぶりに寝屋の谷口さんからメダカの提供がありました。子ども達は、メダカの飼い方などの説明を受け、ペットボトルに入れたメダカを大事そうに持って帰りました。

□子ども自然シリーズ講座⑥ おもしろ科学実験

8月6日(土) 小・中学生

参加者 33名 (内子ども 8名)

昨年度コロナ禍で中止になりましたが、今年度は開催できました。

最初に講師の佐藤先生が子ども達に理科が好きになって欲しいという「思い」を語られました。

まず、紅茶(色の水が入った)のペットボトルを見せ、振ると色が消え透明に、この水をコーラのペットボトルに入れて振るとコーラの色に変わり子ども達はびっくり!!薬品と蓋に塗った絵の具のトリックに子ども達は引き込まれていきました。



音が鳴る!

ワイングラスに水を入れて淵をこすると音が鳴る。ピンと張らなくても聞こえる銅線の糸電話。ストロー笛。仕付け糸を使ってストローで糸の輪を作る。水の入ったペットボトルに入っているプラスチックの魚が沈んだり浮いたりする不思議なもの(浮沈子)。楽しい実験をいっぱいしました。

最後に科学おもしろクイズがありました。リンゴの切口の絵があり、どこが実(果実)か?という

問題です。食べ残す芯の部分が実(果実)と知っておどろき。他の実(果実)でも食べているところが本当は果実でないことを知りました。理科が好きになったようです。



輪っかが引っかかるかな?

協力活動

□ 図書館 科学実験

7月23日(土) 子ども8名 協力者7名
「科学実験!十円玉とうめぼしのふしぎ」

講師の塚本さんから「十円玉をピカピカにするにはどうしたらよいか?」の問いかけで、予想をしながら実験を進め、梅干しで十円玉がピカピカになりびっくり。レモン(酸)と食塩(塩)をかけてもできることなど楽しく学びました。

おまけに、色ゴマとベンハムのコマを作り、回して色の変化や現れる色のふしぎさを楽しみました。



梅干しの時ピカピカ!

□ エスポクラブ クラフト

9月11日(日) 子ども13名 協力者4名
～水万華鏡・どんぐり工作～

水万華鏡づくりは、3枚の鏡を汚さないように筒を作り、透明なビニール管の中に洗濯のりと水を加えたものとビーズを入れたものを合わせます。ビーズがゆっくり動くと美しい模様がいっぱい見え、きれー! 次にどんぐりなどの木の实や葉っぱ、小枝などを使ってどんぐり工作をしました。グルーガンを使って楽しそうに作っていました。



できた!

ガイドブック「秋の淀川」編集の進捗状況

～秋の淀川もおもしろい～

身近な自然ガイドブック第8編「秋の淀川」の作成に、昨年度の調査活動に続いて、今年度も取り組んでいます。ガイドブック「春の淀川」に続いて2023年3月完成を目途に、この秋も調査・編集に取り組んでいきます。ガイドブックの体裁は、本編も資料編も「新版 春の淀川」に準じています。



7月に寝屋川市のふれあい基金からの援助も決定し頂きました。2023年4月にはお手元にお届けし、秋には発行記念の自然観察会も考えています。

みんなで作る自然資料室だより

□子ども自然シリーズ講座

②道具を使って工作(竹のけん玉) 6月18日(土) 参加者29名(内子ども10名)

工作道具をあまり使ったことが無い子どもが、のこぎりやカッターナイフ等を使って竹のけん玉づくりに挑戦です。1本の竹を5つの部分に切り分けます。今日は摂南大の5人の学生さんも手助けに来てくれました。子どもたちは大人の手を借りて、四苦八苦しながらノコギリを扱っていきます。ナタで細工するときは、スタッフが行いました。最後は、ナイフで削ったり、紙やすりで整えたりしてけん玉に仕上げていきました。出来上がったけん玉で、最初は難しかったようですが、講師の東森さんのヒントで、少しずつカップが筒に刺さるようになりうれしそうでした。

「どうやって作るかを考えるのが楽しかった」「完成したときに、やったという達成感があったし、遊んだ時に喜びがあった」など多くの感想がありました。



竹を上手に切りました

⑤水鉄砲作り 7月30日(土)

参加者31名(内子ども13名)

子どもたちが楽しみにしているイベントの一つです。今日は竹を切ることなく、竹筒、押し棒、スポンジ等をセットにして用意しました。竹の先に水の出る穴をキリであけ、押し棒にスポンジと布をひもでくりつけていきます。一人では無理なので、大人の人に手伝ってもらい何回もきつくくりつけました。後は、筒に押し込んで完成です。

子どもたちは駐車場に仕掛けてある的に向けて水鉄砲に夢中です。最初は服に水がかかることにためらっていたのが、だんだん気にせず的に向けて発射していました。今日は



うまく押せるかな?

修理する水鉄砲が少なく、どの子どもも満足のいく1日になったと思います。

⑦水辺の生きもの 9月10日(土)

参加者24名(内子ども9名)

水辺に親しむ会の新城さんが、カメやザリガニなどの生き物を水槽に入れて持ってきてくださいました。中にはクサガメの卵と生まれたての子亀(5cm位)、そして大きな親亀(40cm位)は見ごたえがありました。プロジェクターを置いていねいに話を進められました。メダカとカダヤシの違い、タウナギとウナギの違い、タナゴの不思議等について話されました。子どもたちは、熱心に説明を聞き、休憩時間に各テーブルにある水槽の中を観察していました。大きなカメを触ったり、タウナギに恐る恐る触れてみたりしていました。連れてきた親御さんも見たことのない多くの写真に見入っておられました。



受講のようす

□大人自然シリーズ講座

③地層と石ころ 6月24日(金) 参加者20名

昨年の石ころ学入門に続き、「地層と石ころ」のお話を西村さんにお願ひしました。2部に分かれていて1部に「地層と石」、2部に「角ばった粒々」です。プロジェクターを使い「寝屋川の寝屋」「チバニアン」等の積み重なった縞模様の地層や地球の熱と力で褶曲した地層、海底の生き物の殻からは石灰岩やチャートなどが生まれることなどをていねいにわかりやすく映像を見せながら話されました。また、花崗岩は地球の石で、他の天体には無いことも知りました。実験では、石灰石に塩酸を反応させ二酸化炭素を出したり、糸でつるしたサヌカイトをたたいて音を聞かせたり、蛇紋岩に磁石を付けるなど



塩酸を入れると！

驚かされました。最後に、8種類の岩石の写真で作られたパズルをいただき、絵合わせをして楽しみました。パズルはちょっと難しかったので帰ってからも挑戦されることでしょう。

た地層、海底の生き物の殻からは石灰岩やチャートなどが生まれることなどをていねいにわかりやすく映像を見せながら話されました。また、花崗岩は地球の石で、他の天体には無いことも知りました。実験では、石灰石に塩酸を反応させ二酸化炭素を出したり、糸でつるしたサヌカイトをたたいて音を聞かせたり、蛇紋岩に磁石を付けるなど



岩石の絵合わせパズル

□夏休みの自然体験学習室

今年の夏休みは新型コロナウイルス第7波と言われていましたが、感染予防として入室前の検温と手指消毒、マスクの着用等を徹底し、スタッフが机やイス、使用した道具類の消毒を行い、学習室は予定通り3年ぶりに実施することができました。

夏休みの活動日は25日間で、ほとんど毎日午前午後とも賑わっていました。予定していたイベントはもちろん、どんぐり工作、折紙の壁飾り、巻絵など



賑わう学習室

を作ったりして、延べ282名の子どもと165名の大人が楽しみました。その中で、コリントゲームと巻絵、段ボール工作は2・3日もかけて頑張っている子どもがいました。また、今年は、子どもを連れて来られた母親が同じものを作って、親子ともに喜んでおられたのが印象的でした。ある親は「コロナでどこへも行く所が無く、ここに来られて子どもも楽しそうです。助かります。」とおっしゃっていました。

どんぐり工作など3点



私の散歩道

新型コロナウイルスの第7波と言われ、感染者が増加傾向にあります。熱中症に気をつけて、マスクも周りを見ながらつけたり外したりして出歩いています。今回も会報に寄せていただきました「私の散歩道」を楽しんでください。

枚方ワンドでエリザハンミョウ

天野 史郎

6月13日、枚方市伊加賀の新しくできたワンドに水辺の植物を見に行ったときのことで、砂地の裸地に10ミリほどの小さな虫が無数にうごめいていました。動きがすばやいでなかなか姿がつかめません。やみくもにシャッターを押しつづけると、1枚だけなんとか虫の姿がうつっていました。背中の特徴的なエリザハンミョウです。ハンミョウといえばナミハンミョウがカラフルで普通に見られますが、ほかの種は比較的地味な色合いです。早速ハンミョウ好きの小二の孫に写真を送ると、即座にエリザハンミョウと返事がありました。あとで枚方いきもの調査会の資料を見ると、このワンドでエリザハンミョウが記録されていました。



エリザハンミョウ

エリザハンミョウは、本種を採集されたエリザ・ゴシュケビッチ氏に献名されたものです。エリザ氏の夫は函館の初代ロシア領事をつとめ、ご夫妻ともに精力的な昆虫採集家として知られていたそうです。その後エリザ氏は夫君在任中の1864年に亡くなられ、墓地も函館にあるそうで、なにかと日本に縁のある方です。

日の出前に淀川を散歩して

寺西 喜久雄



メマツヨイグサ

今年の夏は非常に暑い日が続いて、コロナ禍の中、外出も儘ならず、運動不足で体は鈍るし体力はダウンするし……。そんな中、淀川の散歩を早朝に変更して涼しい、日が昇るまでの時間帯に行いました。太陽が昇るまでに淀川の堤防に着き、まず、東向き(上流)に向かって歩くと、日の出の太陽が雲の隙間から顔を出し、清々しい気分で歩き始める。毎日の日の出の空の色が違った色で楽しませてくれます。このような早い、日の出前の暗い時間帯でも何人かがウォーキングなど元気に楽しんでおられるのです。

早朝の雑草は、暑さでおれた葉っぱではなく、緑いっぱい、みずみずしく生き生きと感じられます。淀川の堤防の雑草ももう秋の気配……。私が子どものころは秋となれば淀川の川原は一面のススキの記憶が今でも残っていますが、今では全くススキは見当たりません。半月ほど前から黄色い「雌待宵草」が咲き始めており、いたる所で秋の虫の鳴き声も聞こえます。これからも歩きながら体いっぱい五感を通して、身近な自然の良さを体感したいと思っています。

農園のできごと

富田 茂美

小さな神社の前。高校のグラウンドの横を通り、用水路の水の量を確かめながら歩きます。自宅から歩いて20分が私の散歩道。そして遊び場。少しずつ秋を感じられるようになった朝夕は、淀川に近い農園で役目を終えた夏野菜をかたづけ、土を耕し、石灰をまいて秋への準備をすすめます。枯れた堆肥を動かすと、慌てたコオロギがとび出し、クワを入れるたびに土色のアマガエルがミミズを求めて寄って来ます(“ごめん” “ごめん”と私)。農園の皆さんとの楽しい野菜談義は自慢話も失敗話も、来る季節への励みになります。さあ次はどんな野菜を育てましょうか!?



コオロギ

自然観察を楽しむには???

保科 豊弘

山形の自然を撮ろうと思った。でも山形(東北)固有のものを知らないから、何を撮ったらいいのかわからない。ある日窓から見える田んぼの鮮やかな緑が気に入り、写真を撮った。気づくと秋は黄色、冬は白一面となる色の移ろいに魅了されていた。ふと考えた。自然観察に知識は必須だろうか。満天の星を星座の知識ではなく、火星に思いをはせながら観るのも一興だ。それもこれも立派な自然観察・体験だと思いませんか?



窓からの風景

身近な公園の魅力!!

渡辺 俊之

私の散歩道「成田公園・成田西公園」では、いつも多くの子どもたちや親子づれに出会います。暑かった夏休みも終わり、学校が始まりました。今!子どもたちがどんな遊びをしているのかとても気になります。そこで、9月4日(土)午前10時頃の散歩にしました。はじめに、人気プログラムの「いこいの広場」の中の浅くて小さい池です。母と子ども(小1年男)がザリガニとりに挑戦中でした。その様子は、網を使わないで草をさがわりにしてのチャレンジです。翌日も10時頃の散歩です。少し遅れて「おっちゃん!とったよ!」と、昨日の子どもが母とやってきました。水そうに入っているザリガニを見せてくれました。「よくやったねえ」2日間の親子との楽しいひとときでした。とても残念だったのが2日間でこの時間帯で出会ったのは、この広い公園で3組の親子づれだけでした。コロナ禍で「外で遊べない夏」が子どもに影響して続いているのかなあ?と思います。これから秋へと季節が移っていきます。多くの子どもで賑わう楽しい「子ども自然園」になればいいなあと思います。私も散歩を続けて公園の魅力を味わいたいと思います。①秋のどんぐり拾い(20本以上もあるどんぐりの木)②秋の木の実、木の葉の観察③ちょっと危ない冒険の丘④地層が見れて安山岩などの石ころ拾い⑤池での水鳥や鯉などの観察⑥運動・スポーツの広場⑦遊具 等々、公園で楽しい体験がいっぱいできます。

私の自然観察

身近な昆虫 38.

—ショウリョウバッタ—

高本 憲二

漢字で書くと精霊飛蝗。お盆のころに成虫になって現れるので、ご先祖様の霊と重ねて「精霊」バッタと呼んだとか、精霊流しに使う船の形に似ているのでショウリョウバッタの名がついたとか言われています。そういえばこのバッタの間の抜けたようなとぼけた顔は、「ゲゲゲの鬼太郎」に出てくる「ねずみ男」に似ているし、ひょっとしたら名前を付けた人のご先祖様に似ていたのかもしれませんがね。



ショウリョウバッタのメスの体長は約8 cmでオス(約4 cm)の倍近くあります。体が大きく動きが鈍いためよく目立ち、簡単に捕まえられます。後脚をつかむと、逃げようとして脚を動かします。すると体がギコンバッタンと上下に動きます。この動きから「機織りバッタ」とか「米つきバッタ」と呼ばれましたが、機織り機も米つき臼もない昨今ではもはや死語ですね。ペコペコとやたら頭を下げる人のことをからかって「米つきバッタ」と言いますが、このバッタの動きが由来だったようです。体の小さいオスは、メスよりも敏捷で、捕まえようとする「キチキチキチ・・・」と羽音を立てて遠くのほうへ逃げてしまいます。この音からオスのショウリョウバッタは「キチキチバッタ」と呼ばれています。

ところで、ショウリョウバッタのようなバッタには、同じ種類でも緑色のものと、褐色のものがいます。バッタの体色は、幼虫時代の環境の湿度によって決まると言われています。湿度が高いということは周りに植物がたくさんあって緑色の環境なので、体色は緑色になり、湿度の低い乾燥した場所は植物が少なく、土がむき出しなので体色は褐色になるというわけです。

右の写真のように緑と茶が混じった体色のショウリョウバッタもいます。まばらな草に紛れて恰好な保護色になっていますね。このような模様の体色は、どんな時に現れるのでしょうか？不思議ですね？



ショウリョウバッタ : *Acrida cinerea* バッタ目 バッタ科

自然はすばらしい植物シリーズ 38. ヤイトバナ 花期 8~9月

名付け親は子ども

本多 政雄

アカネ科、ヤイトバナ属、(*Paederia scandens*)

日当たりのよいやぶや草地、土手などにふつうに見られるつる性の多年生草本で、基部は木質化している。茎は左巻きでほかの木や草などにからまって長くのびる。葉は対生し、長さ 4~10 ㍎。幅 1~7 ㍎の楕円形または細長い卵形で先はとがっている。日本では全土に分布する。

花期に葉腋（ようえき）から集散花序をだし、灰白色の鐘形花をまばらにつける。花冠の先は浅く 5 裂し平開する。花冠ののどから奥は紅紫色が目立つ。果実は核果で緑色から黄褐色に熟し、果実の中に核果が 2 個できる。

昨年から仮称『秋の淀川』自然観察ガイドブックの編集に取り組んでいますが、淀川で調査活動をする中で春とは異なる植物に出会えるので興味津々です。

今回はその一つヤイトバナ（別名ヘクソカズラ）について調べてみました。子どものころ親



に叱られたときに「お灸（きゅう）をすえるよ！」とよく言われたのを覚えています。関西ではお灸のことを「やいと」と言いますが、昔はいたずら小僧をおどかすのによく使われた文句です。幼少の時代に銭湯で背中に丸いお灸の跡をつけた年寄りを見ているので、その痛さは想像

できます。そんな時代の子どもの遊びから生まれたのがヤイトバナという名です。

この花の表面は細かい白い毛が密集するため、灰白色に見えます。その花を逆さにし、花の口につばをつけ、手や腕などに押しつけます。すると花は落ちずに着いています。それをもぐさに見立てたわけです。ちょっと花筒の尻をつまむと、花筒の内側の赤色が浮き上がってきます。それがもぐさの頂上でくすぶる火になるのです。たいていは友だちの間で「やいとをすえたる」と追いかけてまわして遊んだようです。また自分の鼻の頭にくっつけて赤鼻の天狗（てんぐ）と称してふざける遊びもあったようです。

灰白色の花にもぐさを見る想像力や花の内側の赤を見逃さぬ観察力は子どものリアリズム（現実主義）です。またヤイトバナには独特の臭気があり、ヘクソカズラの別名があります。じつはこちらの発想のほうが歴史は古く、『万葉集』にクソカズラの名で登場します。

「さう莢(けふ)に延(は)ひおほとれる糞葛(くそかずら) 絶ゆることなく宮仕えせむ」

(高宮王たかみやのおおきみ・第16巻 3855)

意味はさう莢(けふ)にまわりついて生い茂っている糞葛のように、強くたくましく、いつまでも宮仕えをしたいものです。さう莢とはジャケツイバラともサイカチともいわれています。

「絶ゆることなく宮仕えせむ」という宮廷をたたえる常套句（じょうとうく）に、クソカズラを対比するところが万葉歌のリアリズムだと思います。ヤイトバナのつるは歌にあるように「絶ゆることなく」延びていきます。ヤイトバナもヘクソカズラも、人と植物の係わりから生まれた名です。

自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「ダーウィンと化石1～4」に続いて、今年度は「火山のふしぎ」をお届けします。

火山のふしぎ ② 火山灰

西村 寿雄

「火山のふしぎ②」は火山灰です。最近では桜島が噴火していますが、たいていは東寄りに火山灰は流れます。しかし、風向きによっては鹿児島市内に降り積もり大変です。洗濯物は干せないし、窓の隙間から家の中まで火山灰は侵入してきます。道路は灰袋の山です。



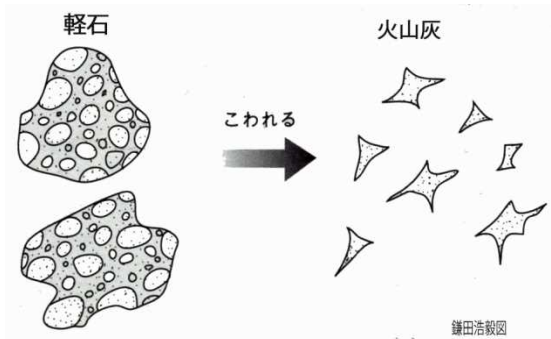
1986年8月の桜島

さて、日本では過去火山灰は最大どのあたりまで飛んだでしょうか。100km ぐらいだったでしょうか。500km ぐらいだったでしょうか。それとももっと 1000km ぐらいは飛んだでしょうか。

今までの記録を見てみると大きかったのは鹿児島湾周辺火山です。2000 年前に鹿児島湾北部から出た始良^{あいら}火山灰はなんと東北地方まで飛んでいます。もう一つ大きいのは 5000 年前に噴火した鬼界^{きかい}火山で鹿児島西部の海から噴火しています。これも火山灰は関東北部まで飛んでいます。

「火山灰」と言いますが、もちろんたんなる「灰」ではありません。火山噴火に伴って出てくる鉱物の微粒子です。ときには細かい火山ガラスもたくさん含まれています。それらが広がるとどんなことが起きるでしょうか。

今どき、始良火山のような大噴火が起きると現代社会は大混乱です。富士山噴火がとりざたされていますが富士山噴火の比ではありません。



火山灰は雪のように解けません。まず、建物や道路の被害は甚大です。人の器官や目に入るとはげしい痛みを感じます。それだけでしょうか。各種の電子機器に不具合が生じ交通も大混乱になります。現代社会は火山灰に弱いシステムがすみずみまで広がっています。大規模な噴火になると広範囲に太陽光を遮ります。農作物の成長にも大きな障害が起きるでしょう。もし、富士山が噴火したら関東周辺は大混乱です。対策としては、複数の交通網やアナログ世界をできるだけ残すことも大切ではないでしょうか。次は近年話題になった火砕流についてです。

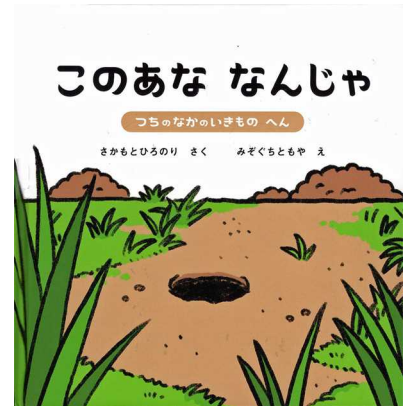
図書紹介

～こんな本が出たよ～

『このあな なんじゃ ② ～つちのなかのいきもの へん～』

さかもとひろのり / さく みぞぐちともや / え 仮説社

「このあな なんじゃ」シリーズ1は干潟だった。干潟も多様な生き物がいて穴に出会うのも楽しかった。しかしやはり海浜地帯、子どもたちには「いつでも、どこでも」見えるとは言えない点があった。その点、こんどは身近な公園や神社の土の中が（探検）の場となった。身近かな場所なので子どもたちもすぐに足元の穴探しに出かけることができる。



体裁は、シリーズ1と同じく「なんじゃ なんじゃ このあな なんじゃ」で始まる。折り込みのふたを開けると土の中で生きる昆虫などが出る。アリに始まってハンミョウやコガネムシ、クモなども出てくる。つづいてちょっとでかい土盛りの穴が出る。ちょっと大きな土の山なので昆虫ではなさそうだ。なんだろう。なんと哺乳類のモグラだった。そういえば最近では都市公園ではモグラはほとんど見なくなった。お目当てのミミズが少なくなったからか。土が固いからか。モグラの穴は、土の中では横にも長く連なっている。大きな土盛りが周辺にいくつもあるとモグラの仕業だ。ミミズの土盛りはうんと小さい。いくら広場でも穴の主を見つけるには根気がいる。

最後の方に「なんじゃ なんじゃ あなが ないんじゃ」とある。でも、穴が開いてないだけで土の中はカブトムシの幼虫やミミズなどで生き物いっぱい。ああ安心。

じつはこの本、「生態系と生物多様性」がコンセプトとして掲げられている。地下で生き物の棲み家が多いという事はそれだけ土が柔らかで生き物がたくさんいるということ。生き物が多いという事はわたしたち人間生活も豊かになってくる。ふだんなにげなく踏んでいる土の中も生物の棲み家なのだ子どもたちが感じてくれるといいな。

2022年5月 1,500円 <西村 寿雄>

お知らせ

展示会の日程が決まりました

○2022年度 展示会「私の自然観察」

日 程 : 2023年1月27日(金)～30日(月)

会 場 : アルカスホール 1階ギャラリー

作品の募集



「自然」に関わる写真などをお寄せください。詳しくは、次号でお知らせしますので、ご予定ください。

行事予定



ミズギボウシ(四條畷・田原)

□みんなの掲示板④

シダの観察会

雨天中止

- ◇日時：10月10日(月・祝) 9:30~12:00
- ◇集合：京阪河内森駅 9時30分
- ◇持ち物：水筒, 雨具, マスク他
- ◇コース：河内森⇒高区配水池⇒河内森
- ◇案内：天野史郎さん
- ◇下見：10月4日(火)日程は当日と同じ

□みんなの掲示板(追加)

打上川治水緑地の自然散策

雨天中止

(打上川治水緑地わくわくdayに協賛)

- ◇日時：10月23日(日) 9:30~12:00
- ◇集合：打上川治水緑地 西北口 9時30分
- ◇持ち物：水筒, 雨具, マスク他
- ◇案内：中村清秀さん、篠田長政さん

□みんなの掲示板⑤

当尾の里の紅葉 (浄瑠璃寺・岩船寺)

- ◇日時：11月22日(火) 7:30~17:30
- ◇集合：京阪寝屋川市駅東側
アルカスホール前 7時30分
- ◇持ち物：水筒, 弁当, 雨具, マスク他
- ◇参加費、定員：3000円(マイクロバス)25名
- ◇参加申込：11月10日(木)までに
中村 (090-8750-5738)
千田 (090-4036-0719) いずれかへ

□野外活動センターの

自然観察と環境整備

◇日時

その②：10月7日(金)10:00~14:00

その③：12月6日(火)10:00~14:00

◇集 合：野外活動センター

◇持ち物：帽子, 雨具, 水筒, マスク他

◇内 容：自然観察と環境整備

*お楽しみ昼食

◇参加申し込み：

その②：9月30日(金)

その③：11月30日(水)までに

千田 (090-4036-0719)

東森 (090-5645-1531) いずれかへ

□第4回定例自然観察会

四條畷下田原の自然観察

- ◇日時：9月23日(金・祝)9:30~15:00 雨天中止
- ◇集合：飯盛霊園バス停 9時30分
- ◇コース：飯盛霊園→薬尾寺池→堂尾池→飯盛霊園
- ◇持ち物：弁当、水筒、雨具、筆記用具、マスク他
- ◇案内：田中英明さん 上田 豪さん

□第5回定例自然観察会

深北緑地の昆虫

~昆虫さがし・バッタ飛ばし・バッタクイズ~

- ◇日時：10月2日(日) 9:30~12:00 雨天中止
- ◇集合：深北緑地 管理事務所前 9時30分
- ◇場所：緑地内・深野池付近
- ◇持ち物：網、虫かご、水筒、マスク、帽子他
- ◇案内：高本恵二さん

□第6回定例自然観察会

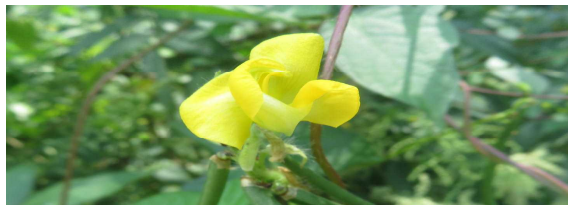
深北緑地のどんぐりウオッチング

~木の実・木の葉・どんぐり工作~

- ◇日時：11月6日(日) 9:30~12:00 雨天中止
- ◇集合：深北緑地 管理事務所前 9時30分
- ◇場所：緑地内 ロケット広場 深野池 ほか
- ◇持ち物：水筒、雨具、筆記用具、マスク他
- ◇案内：木村雅行さん

* 参加の申し込み不要、当日集合場所へ

* 各観察会の詳細については、別添連絡資料をご確認ください。



ヤブツルアズキ(四條畷・田原)

[編集後記]

夏の暑さもコロナの心配も、まだまだ続いています、少しは外へ出て秋の自然を楽しみたいと思います。秋の行事への参加をお待ちします。